



明化の教育

12月号 (第528号)

令和6年11月29日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

地域の学校 明化小学校

校長 熊倉 勝

「明化小が、今のこの場所に建てられたのは明治36年です。この時、高等科の子供たちが、ある物を自分たちで作りました。さて、自分たちで作ったものは何でしょう。」「正解は、校庭です。昼休みに桑の根っこを掘り、手にまめを作りつつ校庭を作ったそうです。」これは、開校150周年記念児童集会に向けて代表委員会が作った「明化小学校150クイズ」の中の一つです。この1問だけでも当時の子供たちの明化小に対する強い思いを感じます。

11月は、明化小学校の開校150周年を祝い、これまでの輝かしい歴史と伝統を振り返る大切な月となりました。子供たちは、150周年の思い出を形に残すために全校で次の2つのことに取り組みました。1つは、体育館に飾られている横断幕作りで

全校児童が力を合わせて貼り絵で作ったお祝いの横断幕が体育館に飾られ、記念式典・祝賀会会場に花を添えました。

す。各学年で分担して貼り絵で作りました。明化小の未来への希望を感じる見事な作品になりました。もう一つが、「開校150周年お祝い給食」の献立作りです。保健給食委員会が全校に呼びかけ、147通の応募がありました。子供たちのアイデアを基に田中栄養士が考えた献立は、「クスノッキーライス・明化スープ・屋敷サラダ・あじさいゼリー」。11月5日に全校でいただきました。当日子供たちが食缶を開けるとブロッコリーで作られた「150」という文字があり、各教室に歓声が上がりました。子供たちの思いがいっぱい詰まった給食は、開校150周年の思い出として心に残ることでしょう。

11月13日には、開校150周年記念児童集会を行い、全校で150周年のお祝いをしました。冒頭に本校卒業生の一行院住職八木千暁様に雅楽の演奏を披露していただきました。また、開校150周年を記念して器楽部に「式典序曲」を作っていただいた本校卒業生の越川廉様に曲に対する思いを語っていただきました。子供たちは、本校の先輩方の活躍と明化小に対する思いを強く感じ、本校で学んでいるよさを実感できたことと思います。各学年の出し物も心のこもった温かい内容でした。

16日には開校150周年記念式典と祝賀会を無事行うことができました。式典での5、6年生の子供たちによるよろこびの言葉と合奏、祝賀会での器楽部の合奏は、子供たちの気持ちがしっかり伝わり、多くの方々に感動を与えることができました。式典での鳴りやまない子供たちへの拍手が物語っています。子供たちにとっても達成感、満足感につながりました。“明化の子どもはやり通す”姿を見せてくれた子供たちを校長として誇りに思います。祝賀会も、明化小を懐かしむ和やかな会となりました。子供たちは、これらの活動を通して、本校の長い歴史や伝統を理解し、愛校心と学校に対する誇り、さらに感謝の気持ちをもつことができたと感じています。ぜひ、一連の周年行事等を時々思い出し、明化小学校で過ごしたことを誇りに思い、未来を切り開き前進する礎にしてほしいと考えています。

開校150周年記念行事を行うに当たり、地域、保護者、同窓生の皆様には多大なるご尽力を賜りました。改めて感謝申し上げます。明化小学校を地域の学校としてますます発展させることができるよう今後とも皆様のお力添えをよろしくお願いいたします。

カレンダーも残すところあと1枚となりました。本年も本校の教育活動にご理解とご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。よいお年をお迎えください。